

## 看護だより

NURSE

平成20年10月3日

10月といえば十三夜（9月は十五夜ですよ）！！  
秋の夜長に空気の澄んだ空を仰ぎ  
ひときわ美しい月を見て心を癒してみてもうですか？



# ☆研修報告☆



## 癌化学療法と看護

平成20年8月12日

5階病棟 大岩 和子

死亡原因の第1位であるという『癌(悪性新生物)』。その対策である癌拠点病院が一県に一箇所、しかも知多半島医療圏には連携拠点病院さえ決定していない状況であるという現実に驚きだった。『癌難民』という言葉が出て、対癌10ヵ年計画という政策が施されてから20年以上が経過して尚この状態。高齢者が多い常滑市には癌患者も多い。癌患者と高齢者に対して優しい病院である為、知識・技術をもった看護師でなければならないと思った。当院も化学療法を外来で行っている。「癌」であっても外来化学療法が受けられ、余生をできるだけ長く自宅で過ごせるような知多半島医療圏であって欲しいと思った。またこの為には、より詳しい知識を持ち外来化学療法が患者にも医療者側にも安全に安心して受けられるような、バックアップ体制を整える必要があると思った。

5階病棟でも血液内科・消化器内科の患者が入院する事が増えているように思う。今回の研修を生かし、化学療法の副作用について特に注意しながら、癌患者の看護をより深く考えていきたい。

## 高齢者の身体ケア

平成20年8月25日

西4階病棟 竹内 志歩

認知症のケアと人権・意思決定・高齢者のスキンケア・栄養管理・排泄ケアについての研修へ参加した。認知症高齢者はケアの鏡である。私達の姿勢・態度は、確かに私達に跳ね返ってきていると感じた。また種々の機能低下により、少量の刺激でも皮膚トラブルの出現・摂食障害による合併症出現や治癒遅延、排泄障害によるQOLの低下が引き起こされている。当院でも、利用患者様の多くは高齢者であるため、普段何気なく過ぎていたケアや関わりを振り返る良い機会となった。加齢に伴う身体・精神の変化の特徴を理解して「その人」の問題点を観て、ケアや関わりをしていく大切さを改めて実感できた。

## 看護師が力を発揮するために～命を守り命を支える看護を目指して～

平成20年9月1日

外来 若山 美保

講義は講師（佐藤紀子氏）が書かれた「看護師の臨床の『知』」を元に進められた。講師のモットーは「75歳まで働きましょう」です。看護師という国家資格をもっている私達は少子高齢化社会において、自分の持っている知識や技術を磨きながら「人を気遣い世話をする」仕事を通して、人々に貢献し続けましょうという事だった。また今後の課題として、全国で3万6千人の看護師が不足しているが、現在働いている人達が離職しないように働きかける事が重要だと訴えられていた。その一つとしてナラティブ・アプローチ（実際に自分達が行った看護に対して語る事）が強く印象に残った。「臨床経験を語る事」は今まで私達看護師はしてこなかった。今後ナラティブ・アプローチを院内でも行えば、自分達の看護を振り返る事ができ良い刺激になり、離職防止にもつながるのではないかと考えた。